

# SHIN CLUB 274

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「DAVISON Building」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

## 年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新たな年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、アメリカ大リーグでの大谷翔平選手の活躍を始め、国内外で日本人選手の活躍に注目が集まりました。特に11月・12月に開催されたサッカーワールドカップにおける日本代表の活躍は記憶に新しいところであります。

一方、政治的にはロシアのウクライナ侵攻は我々にとっても大きな衝撃でありました。新しい日常となってしまったコロナ禍も相まって、強烈的なインフレが未だ継続中です。建設業界も当然ながら影響を受け、資材高騰のみならず慢性的な人手不足は深刻であり、更には来年、働き方改革関連法の猶予期限「建設業の2024年問題」が控えています。当面の間、生産性の効率化が最大の課題であり、個人そして会社組織としての成長が問われることになるでしょう。

このようなご時世ではありますが、弊社の進むべき道は変わりません。お客様、設計者の皆様の強く熱い想いを形にするため、「こだわり建築の追求」を続けてまいります。ホームページもリニューアルし、その想いや実績を公開しておりますのでご覧いただけると幸いです。

昨年9月25日、弊社前代表取締役が逝去いたしました。本当に無念でなりません。新しい時代を切り開かねばなりません。社員一同、遺志を受け継ぎ、株式会社辰の更なる発展のために精進いたします。皆様、今後とも何卒変わらぬご愛顧賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

2023年 元旦 株式会社辰 代表取締役 岩本 健寿

## DAVISON Building

### 人生の印象に残る時間と記憶

記憶に新しい東京オリンピック。その象徴ともいえる新国立競技場が建つ渋谷区千駄ヶ谷に、狭小地ながらもスタイリッシュなテナントビルが完成いたしました。

新国立競技場の目の前、国道 418 号線沿いに建つその建物は、SHINCLUB227 号で紹介の「社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院」や SHINCLUB256 号で紹介の「Cadre Motoazabu」など、弊社で数多くお仕事をさせていただける HOU 一級建築士事務所の設計です。

各階の前面ガラスが印象的で、無機質ななかにも都会の洗礼された雰囲気を感じさせています。エントランスには色鮮やかなステンドグラスがあしらわれ、日が暮れて明かりがともると、その漏れる明かりがステンドグラスの温かさを更に演出。エントランスのオートロック機能はもちろん、各階不停止対応のエレベータシステムを採用し、セキュリティ対策もなされています。

今回の計画で 1 番難題だったのが、建物裏の屋外階段。上裏の形状が幾何学で、コンクリート型枠のみならず配筋計画をするにあたり、一度 3D プリンターで模型を作成。実際施工した際に組みあがるかを念入りにシミュレーションし、施工計画をおこないました。時間はかかりましたが、綺麗に仕上がった屋外階段が、建物の品格をさらに底上げしています。

建物名の「DAVISON : デヴィゾン」は建て主様夫妻が大学院時代に住んだアメリカのアパート名から命名されたそうです。

「手ごろで良いアパートメントがあるよと友人に紹介された建物で、3階建ての古いレンガ造でした。入口にステンドグラスがあり、上に『DAVISON』って書いてあったんです。そこで暮らし始めて子どもも生まれて。その前後、アメリカ国内で引っ越ししたり、短期間アジアにも住んだのですが、デヴィゾン時代が 1 番楽しく、充実していて印象に残っていたんですね。今回、建物の名前を決めようと話していたときに娘から「DAVISON が良いじゃない」と言われ、なるほどと思いました。借りていただく方々にもこの建物での経験や時間が記憶に残る大切な時間になってもらいたいですね」(建て主：あわや様 談)

(編集部まとめ)



建物全景。前面のガラス張りが印象的



5階貸室。建物唯一のメゾネットタイプ



4階貸室



上裏が綺麗に納まった屋外階段



建物エントランス



5階洗面脱衣所



新国立競技場を借景に



建物夕景



屋上からは絶景が望める



開放感のある5階カウンターキッチン

構造：RC造  
 規模：地上6階  
 用途：サービス店舗・事務所  
 専用住宅  
 設計：HOU 一級建築士事務所  
 竣工：2022年4月  
 施工担当：富樫・野木  
 撮影：アック東京

体感できるアート展示を

あわや のぶこ / 知半庵庵主・知半アート代表



知半庵表札



# Nobuko Awaya

今月は「DAVISON Building」の建て主の会社役員、あわやのぶこ様にお話を伺いました。

幼いころからいろいろな芸術と接する機会が多かったあわや様。大学卒業後、ジャーナリストとして国内のみならず海外でも活躍され、様々なアーティストの方とその作品に出会ったそうです。

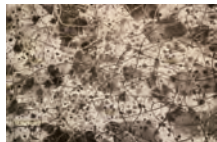
帰国後、異文化コミュニケーションを専門として大学で教鞭をとりながら、ご自身の生家でもある静岡県伊豆大仁（おおひと）にある江戸時代の民家、国の登録有形文化財に指定されている旧菅沼家住宅「知半庵」で、文化交差をテーマとするイベント「知半アートプロジェクト」を年に一度開催しています。取材に伺った日は第10回記念展示「墨のこえ」の会期中で、間近でアート作品を鑑賞させていただきました。

一歴史的にも大変貴重な「知半庵」でアート展を開催しようと思ったきっかけはあったのでしょうか。

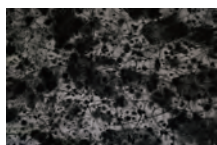
あわや：曾祖父が村長の時代、伊豆はとても貧しかったので、彼は緊縮政策を採り、自らも質素に暮らしましたが、一方で、文化や教育がおろそかになってしまうのは良くないと、寺子屋の女子教育を徹底され、文化や教育を守ってきたそうです。そういった話を幼いころから聞いていました。私が日本へ戻ってきたのちに伯父が亡くなり、私が受け継ぐことになったのです。はじめは能面師の友人が合宿に来たり、大学のゼミ会で使ってみたりと文化・教育で活かしていこうと試していたとき、日系アメリカ人で現代舞踏家の友人が日本で公演するというので観に行きました。そこで演奏された尺八と声（ボイス）に魅せられ、結局、彼らに知半アートのオープニング・コンサートの出演依頼をしたのでした。知半アートは、静岡県文化活財団から地域文化活動奨励賞もいただき、今では、静岡県の代表的プロジェクトとなっていますが、2007年当時はゼロからの出発。当時、尺八奏者で国際文化会館芸術監督でもあったクリストファー・遙盟が私の話を聞きながら「あわやさん、観客が2, 30人しか集まらなくてもいいじゃない。君の夢に乗りましょう」と言って知半アート出発の後押しをしてくれました。彼らは現在、アメリカ在住ですが、今も知半庵の良き知恵袋で友人です。



クレヨンと墨のアラン・ラオ作品  
The Voice of SUMI 2022,  
photo by Masahiro Nagasaki, © Chihan Art. All Rights Reserved.



室内照明を照らすとクレヨンが前面に浮き出る



後ろから照明を当てると墨の濃淡が奥行を感じさせる

一この距離感でコンサートやアート作品を鑑賞できる体験はなかなかないですよ。あわや：どの展示もそうですが「場」が大切。知半庵では庭も会場なので外で演奏したり、ダンスも襦や障子を使った表現もでき、庵の空間を十二分に活用するこ

とができます。鳥の囀りや風の吹き抜ける音、近所の犬の遠吠えさえ、思いがけない自然の効果音になり、一期一会のアートになるんです。

一現在開催されている「墨のこえ」のアート作品を鑑賞させていただきました。美術館では感じる事が難しい、アーティストの製作意図を肌で感じる事ができました。

あわや：企画のポイントは、和紙を立体と捉え、墨絵自体が立体作品であるという考え方をしています。油絵はキャンバスに絵具を重ねていきますが、墨絵は繊維の重なりで墨が入り込んでいく。墨の濃淡とは、その墨の入り込む深さなのです。アラン・ラオの作品はクレヨンと墨、絵によっては水彩やボールペンさえ加わるいわゆるミックス・メディア作品です。自然光や照明の当たり具合によって、全く別の作品に見えます。美術館で展示すると、作品はほとんどの場合、壁に飾られガラスで隔てられ、作品の質感や本来の意味を感じる事が難しい。知半庵では「生きた作品」が見られるのです。美術品って、家に飾っておくと時間や日の移ろいで表情の変化が楽しめますでしょう。そういった楽しみを取り戻したいと思って展示の仕方を工夫しています。

一そうなんですか。「アート」と出会ったきっかけはありましたか。

あわや：子どもの頃、母がパリから帰国したばかりのピアニスト山根弥生子のサロンコンサートに連れて行って来て、最前列で鑑賞しました。なんの音楽的な知識もない子どもでしたが、すぐその素晴らしい音に魅了されていました。が、ふと見ると山根さんの青いジョゼットのドレスに汗がポタポタ落ちているではありませんか。

『こんなに美しいものを生み出すためにこんなに努力しなければならないんだ』と子どもながらに感じ、アーティストに対するリスペクトというもの自然に生まれました。知半アートもアーティストを選び依頼するたびに、そのときの気持ちを思い出します。私の母も油絵を描いていましたが、結婚を機に全てを辞め家庭に入りました。ところが中年期から染め作品を作り続け、なんと94歳で雑誌「ミセス」に特集され、亡くなるまで手を動かしていました。膨大な作品が残っていますが、幾何学模様が好きで得意としていました。実はDAVISONビルのスタンドグラスはそんな母のデザインを使っているんです。ビルの建つ土地自体も伊豆と母ゆかりの地ですし、その文脈を建物に取り入れられて良かったなと思っています。

一本日はありがとうございました。

国登録有形文化財「旧菅沼家住宅：知半庵」

住所 〒410-2322

静岡県伊豆の国市吉田6 2 3-1

TEL 090-8306-9766

WEB <http://chihan-art.com/artproject/>



## 第3回「法匠祭」が開催されました 2022年11月23日 — アーツ千代田 3331 —

弊社代表 岩本の出身大学である法政大学建築学科卒業生が主催する同窓会（通称：法匠祭）が今年も開催され、昨年に引き続き協賛させていただきました。



今年で3回目となる法匠祭

昨年、一昨年は、新型コロナの影響でオンラインのみも開催でしたが、今年は現地とオンライン双方で参加可能なハイブリット開催となりました。

会場には在学生のほかに、設計事務所関係者、施工会社、各種建材メーカーなど、OB・OGの方々が集まり、学生たちに現在の仕事内容や進路の参考になるような業務紹介、特別対談などがおこなわれました。

就職後どのような業務をおこなうか、設計以外にも建築にかかわる仕事がどのようなものなのか知る機会が少ないものです。学生たちにとって貴重な場になったことでしょう。



現地とオンラインでの双方参加で開催

## (仮称) YCM 新築工事 現場見学会 2022年12月23日

現在施工中の(仮称) YCM 新築工事の設計者、Florian Busch 氏の出身校である AA (the Architectural Association : 英国) の学生さんを現場に招き 2022年12月23日に現場見学会を開催いたしました。



所員の説明を聞く学生たち

学生たちが学ぶ Valentin Bontjes van Beek 教授はロンドンで vbvb スタジオを主宰し、2001年からAAで教鞭をとっています。ドイツで大工としての訓練を受けた後、ニューヨークで Bernard Tschumi や Raimund Abraham の下で建築家として働き、その後ロンドンに戻り実務と教育に携わっています。

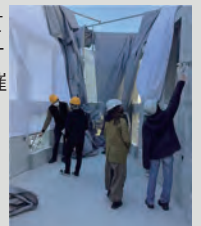
最近の仕事は、1964年の万国博覧会のために Charles and Ray Eames が設計した IBM Ovoid Theatre の 1/1 スケールモデルの復元で、The World of Charls and Ray Eams 展の一部として展示されています。



Valentin 氏 (左端)・Florian 氏 (左から3番目) による解説

当日は安全に見学するためにいくつかのグループに分かれ、設計事務所の所員が誘導、解説し、熱心な学生さんたちからは質問が飛び交っていました。

以前は毎年開催していた見学会もコロナ禍で3年ぶりの開催とのことです。



開放感と開口部のパランスが絶妙な屋上

建物の詳しい内容については竣工後の特集記事是非ご覧ください。

## 「尾山台みどり保育園」が 朝日新聞(夕刊)に掲載



SHINCLUB216号でご紹介いたしました「尾山台みどり保育園」が、2022年11月1日の夕刊に掲載されました。狭小地ながらも子どもたちが思い切り走り回ることができるための工夫を随所に施した建物です。

構造 / 規模 : RC造 / 地上2階  
用途 : 保育園  
設計 : 石川恭温 / 石川恭温アトリエ  
担当 : 村田・尾内  
竣工 : 2018年

## 映画上映会が開催されました —本社ビル7階—



大きく映し出されたスクリーン

2022年11月25日(金)、SHINCLUB272号でご案内させていただきました、映画上映会が開催されました。

弊社が加盟している「ふるさと東京ユネスコ協会」主催の会で、映像作品「ヒロシマへの誓い - サロー節子とともに -」を鑑賞。

今なお続くウクライナ侵攻ですが、メディアの情報のみならず、こういった作品を通じて史実への理解を深めることのできる貴重な機会となりました。

### 編集後記

・新年明けましておめでとうございます。昨年は小紙をご拝読いただき、ありがとうございました。本年も変わらず、お客様・設計者の「こだわり建築」を一棟一棟丁寧にご紹介してまいります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

(株)辰通信 Vol.274 発行日 2023年1月10日

編集人 : 本間夏来/村上由衣 発行人 : 岩本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル 5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail : daihyo@esna.co.jp URL:http://www/esna.co.jp

